

## 第 1 回 観光地経営会議における主な議論

## 1 意見交換（新たな財源の使途に関する基本方針について）

太田観光課長

○まだ経営計画に掲げられていてできてない部分もあると思う。コロナ禍を経て、環境も変わり新たに取り組まなければならない部分もある。まだまだ額まではどれくらいという見積もりが出てきていないが、そういった部分をこの会議のメンバーで使う必要があるところを決定していきたいと考えている。

一方で、財源確保検討委員会 Ver.2 とこの経営会議は同時に進んでいくため、しっかりと情報を共有する中でわかりやすい形で答えていきたいと考えている。

丸山村長

○財源確保検討委員会で使途決定組織についての意見をいただいたので、観光地経営会議の要綱を改正し、この会議を白馬村の観光に携わる代表の方たちで作り上げ、この組織の中で使途を決定していく形を構築したいと考えている。

丸山会長

○何のために使うかではなく、それを行うためにどれだけのお金が必要か、またその目的や目標を皆さんと共有できることが大事だと思う。「世界水準のオールシーズン型マウンテンリゾート」は皆さんの感じ方が一番分かれるところだと思う。資料に少しヒントがあって、「恵まれた自然、山と雪が育む生活・文化を未来に残すマウンテンリゾート Hakuba」「訪れる人それぞれにとっての居心地の良さ、この居心地が良い」と記載されており、ここで暮らす方、訪れる方、その感覚は皆感じ方が違うと思う。何が良いかは、ただここに滞在するのが心地良い方もいるし、アクティビティを体験することや山に登ること、何か食べたり、いろんな人との出会いが良いと言う人もいる。白馬村らしさを皆で考えていければ良いと思う。

世界にはいろんなリゾートがあるが、私は基本的にヨーロッパのようなスタイルが文化や歴史でも見本とするべきかなと思っている。白馬のマウンテンリゾートをどうするか等、この会議で話しすり合わせていけば、その居心地のよさは白馬村にとって何だろうとはっきりしてくると思う。そういう環境を作るためにはどれくらいのお金が必要だという観点で進めていくことが望ましい。

杉山委員

前回の検討委員会では額も決まっていなかったし何に使うかも決まっていなかった。それだとどのくらいの財源確保をしたらいいのか不明確ではないか。だから宿泊事業者が何で俺たちが集めるのか。という話になった。これではなかなか理解は得られないのではないかな。

吉田副村長

観光地経営会議と財源確保検討委員会、この二つが一緒に進んでいかないと額面と使途が決まらなないと考えている。財源確保検討委員会の方は今後リスタートしながら答申を受けた全てに関して検討に入ることになっている。額面はいくらになるかについては、応益の原則と応能の原則をどのようにするのか検討していくことになる。仮に金額があまりにも少なすぎて観光地の魅力を高めるためにはなかなか成果が上がらないということになっては意味がない。額面がいくらでどこまで徹底するのかというのは、両方の進み具合から考えると、明確な答えが同時に出ることは難しいと考える。概ねの

考えをテーブルに乗せ議論していただくことになると思う。額面や内容、金額の多寡はあるのかもしれないが、この会議の中でこういったところに使っていくのかを検討していただきたい。

現時点では経営会議は本日がリスタートで、もう一つの会議（財源確保検討委員会）は今後開催する予定で、そのスピード感が見えてこないと事務局としても答え辛い。

### 中村委員

宿泊業の立場から話をすると、宿泊業が税を回収して宿泊業に使われないと困る。また入湯税があるが、入湯税は観光と消防に使う目的だが、白馬村は全部一般会計に入っているので使われ方がよくわからないのが実情である。税金としていただくためには、目的を明確にしていかないと、お客様が納得しない。

最近の傾向として、ショップが沢山できて、スキー用品等を買って使わなくなった古い用品を宿に捨てていく。このごみ処理問題も補助を考えていかないといけない。スキー用品はリサイクルできないものばかりで、我々はSDGsの観点からも積極的に取り組む必要があると思う。

その日の天気で予定を決める宿泊者がいる。そんな方たちから言われることは二次交通の問題である。また今年はレストランの予約の手配が一番困った。何か良いアプリはないか。旅行者が白馬の旅は全然不自由なく楽しいと言ってもらえるような形にするにはどうすればよいか考える必要がある。

財源の額が重要ではないと思う。集めた中で用途についてルールを決め進めていき、それが総合的にこの地域にもっと人が住みたいと思ってくれる。またここに育った子供たちが帰ってきてくれる。観光と地域の活性化が大事だと考える。子育て支援、福祉の関係などきちんとサポートできる財源確保と明確な目的が一つの方向性かなと考える。集めた税金をきちんと徴収し、どのように使うか、内容を明確にすることが一番大事だと思う。

### 和田委員

観光地経営計画というのは会社でいう中期経営計画だと理解している。仮に自分の会社の中期計画を作るときにどういうことを考えるかという、世界において心地良い街というのは中期計画にはならず、ある程度具体的なKPIと会社の利益、わかりやすい指標があり、そこに対してどんな項目でもギャップが生まれ、そのギャップを埋める政策は何か、それが1つ進んでチェックするという流れになると思うので、当然いろんな意味で財源が必要になる。

財政的な話だけではなく、ゾーニングみたいな話や規制をどうかけるかなどを含め考え理解や確認をしているので、今回は行政という立場に置き換えて考えないといけない。

前回までの討議されている部分と、そこに向けて次はどういう数字が必要で、それに対してなぜそれが足りなかったか。そしてそれが埋まってくると、それをさらに民間企業が担うべき部分と、公的にやるべき部分があり、公的にやるには財源を充てていきましょうという整理なる。

民間企業として自分たちではできないけどやってほしい部分となると、二次交通でとエリアのプロモーションである。現在の観光局の財源と使い方をもう少し効率よくやってほしい。もう一つは街並み整備で、汚い物の撤去などであり、このように整理をして考えていくと用途が見えてくるかと思う。

### ケビン委員

世界水準とは何か。はっきり目標を決めて、それに向かって進めばいいと思う。

### 白田委員

今回の議論もそうだが、お金を集めてそれを分配する基準作りは公平さが非常に大事だと思う。特に白馬村は産業構造が非常に特殊で、費用負担のアンバランスさをすごく感じている。

何に使うかの話では、交通、キャッシュレスのインフラ、集客、景観、索道会社の構造的な問題、観光客の増加、満足度の向上などのボトルネックが何かを整理して進めていくことが重要と考える。

おそらく過去経験したことがないぐらいの勢いで地価の高騰が進んでいたり、この村をどうするか10年、20年先の話というところも見据えもう少し俯瞰的な議論を含めこの場が活用されるといいかなと思う。

#### **松本委員**

居心地の良さというのは、お客様の要望も大事だが昔から白馬に住んでいる村民の抱えている潜在的な不安、特に世界水準型の安定リゾートを目指していく中でインバウンドの取り組みが必須になってくると思うが、声にならない部分や出回っている噂など不安を抱えている方が多いので今後重点方針の中の項目の一つにも村民感情の緩衝材として観光地経営計画会議というものがあってもいいのかなと感じた。